

安井 寿磨子さん

1981年度 大阪芸術大学 美術学科 絵画コース 卒業 (F8126)  
大阪芸術大学美術学科教授

今回は、安井寿磨子展 -花野にて- ギャラリー プチボワ(大阪) 2022年8月22日(月)~9月10日(土)を取材。本展では、秋をテーマにした新作版画を中心にドローイング、オブジェなどの展示もあり、また今年2月に刊行された自伝絵本『ほじょりん工場のすまこちゃん』の挿絵、銅版画が入った特装本も並びました。

銅版画に出会ってから  
今まで飽きることなく、  
いつの間にかライフワークに。



青い月



ふわふわの着物



版画教室



今年の新作のテーマは「秋」。これは一昨年の「春」、昨年の「夏」に続く、季節ごとの彩りを表現したシリーズです。秋のひんやりとした空気に包まれる深い情景の中に、満ち溢れる草花と静かな月。「秋」の冷えはじめた空気の中の、儂い夢の世界です。

眺めるたびに新しい発見がある花の美しさを版画に込めて、想うまま、感じるままの作品の誕生を、作家自身も楽しんでいるようです。

繊細なエッチングにパステルで手彩色した、柔らかく温かみのある作品は、村上龍、池上永一、瀬戸内寂聴などの装画にも採用され、その他にも、新聞の挿絵連載や絵本執筆、堺市親善大使を務めるなど、幅広い活躍をされています。

秋が終わり季節が変わり始めると、次は来年の「冬」を想い、季節を見つめていきます。

「冬」の世界から生まれ出てくる作品も、是非どうぞお楽しみください。

大阪芸術大学美術学科 版画コース

美術学科版画コースでは、版画の基礎的な技法を学び、その表現方法を知ることから、学生自身が楽しみながら、自分自身の個性や方向性に気付くことに、学習の重きを置いています。大学で版画と出会った学生が、その技法や制作過程に興味を持つこと、面白さを感じることも、まずは、何より大切です。そして、その制作過程では、自分は一切何に興味関心があるのかという視点を以て、制作課題を絞っていき、自分自身を表現していきます。

技法を習得することが、版画の目的ではありません。完成する作品のイメージに近づけられるかという体験を通して、学生の中にある自分の世界観を最大に引き出してあげられるよう、サポートしていきます。

ほじょりん工場のすまこちゃん

2022年2月10日に福音館書店より発売されました。日本で唯一残る自転車の補助輪工場を舞台に描かれた物語です。

路面電車がはしる大阪の小さな町で、あんまりやる気のないのんびりやの小学生すまこの赤い自転車は、いつまでたっても補助輪つき。友達にからかわれても、このままでええねん!と、気にしない。しかし、「ほじょりんをはずすぞ」とおとうちゃん的一声で、とつぜん自転車の練習がはじまりました。やる気も勇気もないすまこには、ぜったい無理にきまっています。

「すまこちゃん」がくりひろげる、おかしくて、ちょっぴりしみり、人情味あふれる物語です。



絵本「ほじょりん工場のすまこちゃん」

PROFILE

1959年 大阪府生まれ

現代版画コンクール(大阪府立現代美術センター)への出品などを経て、84年 平松画廊(大阪)にて初個展。96年から現在までギャラリープチボワ(大阪)で毎年個展を開催するほか、東京など全国の展覧会に出品。繊細なエッチングによる線とパステルによる手彩色で、性や年齢などの属性を越えた人物と草花が等しく存在する世界を描き続けてきた。村上龍などの小説の装画も数多く制作し、近年では『百年文庫』(ポプラ社、2010-11年)全100巻の表紙を初の木版画で取り組んだ。『鱧の痕跡』(93年)をはじめ詩画集や自身の幼年時代を題材にした絵本も刊行している。



アトリエ

